



あさやま

コミュニティセンター広報

令和6年1月31日発行
第89号

朝山コミュニティセンター
事業委員会 広報部



年頭にあって

朝山地区自治協会 会長 板垣勝正



新年、明けまして
おめでとうございます。
旧年中は、朝山地区自治協会の運営に對しまして、深いご理解とご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染者も徐々に減少に向かい、五月にはその対策が緩和され、行事の多くが再開されました。

当地区においても、九月の運動会、十一月の文化祭等、各行事に多くの方の参加のもと開催できましたことは、地区民の皆様や各団体の役員の方々のおかげと、感謝申し上げます。

行事の再開に当たっては、コロナ禍の三年のブランクは大きく、小学校の統合、少子高齢化等と相まって、今までは異なる内容や運営方法の変更が必須となりましたが、多くの皆様方の意見、提案を得て盛会に開催できましたこと、改めて感謝申し上げます。

今年には防災、災害に大きな役割を担っていただいています消防団組織の見直し対応、令和三年水害復旧工事の早期完了、道路等インフラ整備の要望活動、学校環境の支援等を意見を頂きながら進めて行きたいと考えています。皆様方の一層のご協力をお願い致します。
新しい年が、良き年になりますよう祈念し、年頭の挨拶と致します。

朝山地区の動き・お知らせ



オープニング 朝山幼稚園



第2回 アームレスリング大会



10月14日 南部6コミセン
合同自主企画事業

窪田を歩こう！ 交流ウォーキング



南部地域の参加者73名が窪田地区のウォーキングを楽しみました。「吉栗の郷」を出発し「三所神社」や「やすらぎの森」を巡りました。

交通安全功労者表彰
雲藤一英様
永年にわたる交通安全活動に對し 中国四国管区警察局長及び中国五県交通安全協会会長から表彰をうけられました

ふるさと朝山で見られる動植物 シリーズ ⑫

イズモコバイモ



みなさんはイズモコバイモをご存じでしょうか。ユリのなかまの背丈が10～30cmほどの小さな植物で、早春の3月頃他の花に先駆けて先端部に白い可憐な花をつけます。日本にしかないコバイモのなかまは全国に8種知られていますが、イズモコバイモは島根県だけに自生する島根県固有の植物です。とても珍しい植物で、絶滅の恐れがあることから県や国のレッドデータブックにも取り上げられています。花が咲くまでに5～6年ほどかかり、それまではユリの幼葉のように1枚葉で過ごします。花をつけるときには、写真のように5枚の葉をつけます。花が傘型によく開くのが特徴とされています。

イズモコバイモ(出雲小貝母)の名前は、昭和49年に山陰市佐田町反辺地区で発見されたことから名がつけられています。佐田町内には市の天然記念物に指定されている反辺の群生地他に何箇所か自生地が知られていますが、朝山地区内にも自生しています。みなさんの家の周りにもあるかもしれませんので、3月中旬ごろ写真を見て捜してみてください。よく同じところに白い花をつけるミヤマカタバミや、86号で紹介したアマナと間違えやすいので注意してください。もし発見したら、ぜひ一報いただければと思います。

なお、佐田町反辺の群生地では3月中旬に1週間程度一般公開されますので、興味のある方はぜひ足を運んでみてください。

馬木町 佐藤仁志

11月30日 朝山地区
安全パトロール隊

歳末特別警戒出動式



出動式の後、全員で朝山地区内を巡回していただきました。

12月17日 まちづくり部
自主企画事業

しめ縄リースづくり



12月21日 おとこ塾
「健康大学」

コミセン大掃除



年末のあたたかい中、窓ふきをさせていただきました。

新年の抱負

～人生の節目を迎えて～

長寿番付

横綱 (百七歳)

石橋ハルノ様 (朝山上)

大関 (百三歳)

天喰 光子様 (御方)

関脇 (百二歳)

青木 廣様 (松下)

勝部ふで子様 (殿)

小結 (百九十九歳)

吉田美代子様 (朝山下)

飯塚八重子様 (殿森中)

雲藤ふみ子様 (殿森下)

奥井 延枝様 (堂原)

※年齢は数え年です

米寿を迎えて

成相 美代子

(朝山中)



ひとり暮らしの私は、家族や地域の皆様方から支えられ、米寿を迎えることができました。感謝しております。

私が生まれた昭和十二年に日中戦争が始まり、父親は生後八ヶ月の私と母親を残して戦死しました。戦争によって複雑な家族の中で育った私は、中学卒業後に「自分は朝山には帰れない」という気持ちで朝山を後にして大阪の会社に就職しました。しかし縁あって、幼馴染と結婚することになり、二十二歳で故郷である朝山に帰って来ました。慣れない百姓仕事や炭焼き、養蚕と辛く大変な事もありましたが、夫に支えられて我慢できました。今思えば懐かしい思い出です。八年前に夫に先立たれ、ひとり暮らしとなりましたが、四人の孫と五人のひ孫の成長を楽しみに、一日一日を大切に生かさせていただいています。ひ孫には教えられることも多く、人生いつまでも勉強が大事と痛感しています。残された人生、元気に過ごしたいと思っております。

還暦を迎えて

吉田 美子

(朝山上)



令和六年、お陰様で夫婦そろって還暦を迎えることができました。この朝山の地で皆様のご指導を賜りながら歩ませていただきましたことに、深く感謝申し上げます。



申しあげます。最近の夫婦の趣味は、朝山の自然の中の野菜作りです。父が亡くなってから父の「畑ノート」を見ながら始めたのがきっかけです。始めはみだらの野菜作りは大変でした。まず雑草と虫との戦いでした。また、台風や大雨などの自然災害、そして、イノシシなどの野生動物にも困らせられたことがあります。しかし、野菜作りはやればやっただけ野菜が大きくなり、採れたての旬の野菜は、何よりもおいしく食べられることに喜びを感じています。

この年になるまで大病などなく元気に仕事を続けられましたことは、朝山の方々のお陰です。これからの人生、少しでも地域に貢献していきたいと思っております。今後ともよろしく願っています。

大島 義治

(榎上)



令和六年辰年、お陰様をもちまして私達も還暦を迎えることとなりました。

私事ですが、昨年は正月に新型コロナウイルスに感染、血圧が高くなり、十二月には骨折するなど体調に問題が出た年でした。家内はラジオ体操、血圧測定など健康に注意しているのですが、私もお酒を控え、ウォーキングなどして健やかに生活出来るよう努めたいと考えています。朝山で生まれて六十年、支えてもらった家族や地域の皆様に心より感謝いたします。

科学技術の進歩などにより人々の生活は豊かになった様に見えますが、最近の事件を聞くと心は貧しくなっていると感じます。

渡部 幸子

(殿森中)



昭和三十四年に嫁いで来て、今年米寿を迎えました。当時はまだゆく玩具の様なガソリンカーで、車窓からは四季折々の景色がとてもきれいでした。三十九年の廃線まで利用していました。その後の山村ででしたが、災害もありました。昭和三十三年の梅雨前線豪雨、三十八年の豪雪、三十九年の山陰集中豪雨など災害が続きます。極めつけは平成十八年の大洪水でした。我が家が床上三十三センチの浸水で家の中に水が入って来るなんて「うそ!」と突然自失となりました。

それでもいつか朝山の人間になっていました。コミセンの活動や団体活動にも参加します。女性の集い「あじさいの会」ボランティアの会、また同和問題など活動の場は広がり、多くの方々との交流は、今でも私の宝です。朝山中を所せましと飛び回っていた日々を昨日の様に思い出します。そして今、家族や地域の皆様方から支えられ元気に米寿を迎えました。ありがとうございます。この美しい山河を皆様方の幸せを日々念じながら余生を送りたいと思います。

喜寿を迎えて

高橋 庸

(馬木上)



「喜寿 せくな老楽これからよ」平和な日本に生まれ育ち、今日まで大過なく過ごしてきました。

最近、みなみ小学校の児童を見かけると、昭和三十年代の小学校時代を思い出します。馬木を流れる十間川にかかる土橋の上からの蛭取りや釣り、神戸川での水泳、稲刈り後の田んぼでの野球、風呂の焚口で竹をあぶって作った木製のそりで滑ったこと等々、遊んだことばかりが思い出されます。

会社員として五十年勤め、今は、朝山地区の皆さんと冗談などを言いながら、趣味のゴルフやグラウンドゴルフを、またコミセン活動、懐メロ童謡など聞き、楽しい日々を過ごしています。

我が家では、歴代の男の中では一番の長寿となりました。これからも、お医者

成相 英幸

(榎谷)



早いもので今年還暦を迎えます。「出来るか、出来ないか」という言葉はなく、「やるか、やらないか」という言葉に胸に生きて来ましたが、そのせいか振り返れば、後半三十年は失敗の連続でした。それでも皆さんに支えられ今日まで生きて来ましたが、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年辰年です。辰年は十二支の中でも最も縁起の良い干支と言われており、様々な願いを叶えてくれるだけでなく、あらゆる物事をいい方向へ導いてくれる力があるとされています。今年がそんな良い年になるよう願っています。

渡部 哲治

(殿森下)



あけましておめでとうございます。私も還暦を迎えることになりました。畑仕事や園芸が好きで、朝山地区の皆さんと交流しています。朝山幼稚園見ヶ久分校、朝山小学校、第四中学校と朝山地区で過ごしてきました。ご存じのように、この一園二校は現在ありません。見ヶ久分校は、見ヶ久・須原・堂原・大月から通っていました。見ヶ久だけでも同級生は十人を数えました。その頃は、畑仕事や園芸が好きで、朝山地区の皆さんと交流しています。朝山幼稚園見ヶ久分校、朝山小学校、第四中学校と朝山地区で過ごしてきました。ご存じのように、この一園二校は現在ありません。見ヶ久分校は、見ヶ久・須原・堂原・大月から通っていました。見ヶ久だけでも同級生は十人を数えました。その頃は、畑仕事や園芸が好きで、朝山地区の皆さんと交流しています。

さんにお世話になりながら地域の皆さんに支えていただき、日々感謝の気持ちを忘れず過ごしたいと思っています。

吉田 郁夫

(朝山下の上)



昭和二十三年生まれの私は今年、喜寿を迎えました。これまでの人生を振り返れば常に朝山がありました。昭和四十一年、地元朝山郵便局に採用され朝山地区を配達して回る「郵便さん」として実社会での生活をスタートしました。以来、優しい朝山地区の皆様に応援していただき約三年後、広島、山口へ転出した。十五年の後に家庭を持ち、長男の朝山小学校入学にあわせてUターンしました。現在はその長男も家庭を持ち朝山で暮らしています。

特筆すべきは私の妻も長男の嫁も九州人であること。どちらかというと閉鎖的な出雲であるにもかかわらず、朝山の皆さんは私達を温かく受け入れてくれました。本当に感謝しありがとうございます。

宍道 行信

(榎上)



「お陰様」この上の無い心。直ぐに忘れがちですが、「いのち恵まれてただ一度」...。唯々不思議な縁に気付かせていただいたことに日々勤めねばと心新たに致しております。

「悟り・真実」を開かれたお釈迦様は、七千巻ものお経の中で、「ただ一つ」真実は、「すべての人を真に幸福にしてやりたい。これ一つ知っておれば、すべてのことを知ったことになる」と示されたそうです。

人間は死ぬんじゃないよ、生まれるですよ(往生)。「もういいかい」まあだだよ、まだまだ...

四十二歳を迎えて

吉田 愛子

(朝山上)



新しい年を迎え、四十二歳の節目の年を迎えることになりました。大きな病気を患うこともなく健康にいられたことは、無事に四十二歳を迎えられたことは、とてもありがたいことだと思えます。それも家族や地域の皆様を支えられてきたからだに感謝しています。三年もの長い期間、新型コロナウイルス感染症のため、日常生活が大きく制限されてきましたが、昨年の五月に感染症法上の五類になり、会食や旅行も自由になりました。昨行われた文化祭や地区民運動会等でも賑わいが戻ってきたように思えます。

今後、賑わう朝山地区を想像しながら地域に貢献できたらと思います。まだまだ未熟な私ですが皆様への感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思います。今後ともよろしく願っています。

今岡 望

(榎上)



新年あけましておめでとうございます。この度、四十二歳の節目の年を迎えることになりました。

私は、若い頃身体が弱く、病気で入院したり、退院後も母に連れられ何度も病院に通っていたのを今でもよく覚えています。そんな私ですが、三年に一度しか風邪をひかなくなりました。昨年、一昨年に妻が新型コロナウイルスに感染した時でも、私にはうつることもなく平然としていました。このような丈夫な身体になれたのも家族の献身的な支えはもろんながら、地域の皆様の助力があったからだと感じています。

とはいえ、人生の折り返し地点ともいえる四十二歳ともなると、何かと体調の変化があるものです。この丈夫な身体をこれからも維持するため、一層の体調管理に努めていきたいと思います。また、これからは自分の出来る範囲で家族や地域の皆様のために恩返しをしたいと思っています。

残された余生を、朝山の恵まれた環境と地域の皆様を支えられながら、日々精進して参りたいと存じます。

飯塚 美代子

(須原)



縁あってこの地区へ来て、喜寿を迎える事となりました。来たばかりの頃は何もわからなかった私も、四十五年が過ぎました。振り返りますと、いろいろな事があり、一つ一つ乗り越えた人生でもありました。その度に地区の皆様はもとより、家族や友人に支えられたからこそ、今があるように思われます。感謝の念に堪えません。これからは、今の健康を維持するためにも、体操・運動など、出来る範囲で頑張っていきたいと思っています。

青木 保二

(畑)



困境世代に生まれ、喜寿を迎えました。小学四年より分校から片道六キロの本校へ通学する事となり、途中では果実等許しもなく頂きました。先生は布袋竹(ほていだけ)を持参し、この竹で「ゴッソ」ときれいに切った。「先生厳しく」とお願いする始末でした。先生も私の行動を見透かし、判ついても素知らぬ顔で対応され、また、手加減を心得ておられました。今にして思えば、寛容に見守って育てて貰った感謝の一言です。

変化する世情においても、人情味のある朝山地区は、人間関係が希薄にならない様に願っています。

また、私は「ズーゾー」出雲弁が抜けず、会社勤務の際は、他県の取引先の方々から、後になってからであったが電話や会話が、出雲弁は神話の国譲りでも奪うことが出来なかった文化と思っております。例えば、「多い」などは十種類もある言葉の文化で、人とのつながりを和ませるものがあり、若い方にも心易く使ってコミュニケーションをあげてもらいたいとよく話します。

朝山は大黒様とご縁の深い所、これからどこまで生かされるか判りませんが、せめて笑顔で忘れない毎日を送りたいと願っています。

二十歳を迎えて

吉田 愛理

(馬木北)



この度、無事に二十歳を迎えることができました。今まで支えてくれた家族、地域の皆様、友人に感謝の気持ちでいっぱいです。私は現在、鳥取県の大学で臨床検査技師を目指し勉強しております。日々進歩する医療に関心を持ち、様々な病気や医療技術の知識の習得に励んでいます。将来は、地域の皆様をはじめ、多くの方々に助けられるような臨床検査技師になりたいと思っています。

まだまだ未熟な私ですが、感謝の気持ちを忘れず頑張っていきたいと思います。今後ともよろしく願っています。

板垣 萌果

(見ヶ久下)



この度、無事に二十歳を迎えられたことを嬉しく思います。これまで私を支えてくれた家族、友人、地域の皆様には心から感謝しております。私は、現在岡山県の短期大学で小さな頃から夢である看護師を目指して、日々勉強に取り組んでいます。先月の三週間の病棟実習がありました。患者様との関わりを通して、個別性のある看護を提供するにはどうしたらよいかを自問自答しながら、意欲的に取り組み、自分の成長に繋げることができました。

今後とも支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、患者さんにとっての心の拠り所になれるような看護師になれるよう知識や技術を磨いていきたいと思います。今後ともよろしく願っています。

